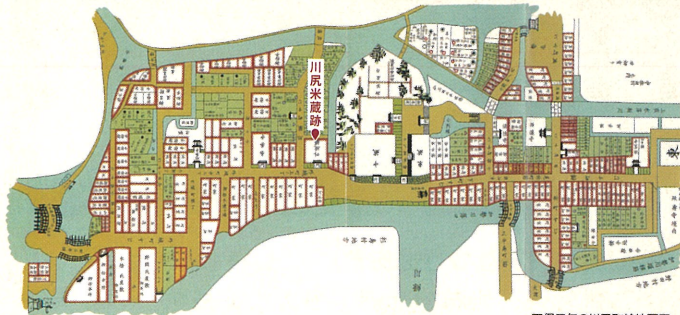


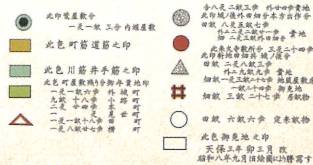


川尻の米蔵

Kawashiri's Rice Granary



天保三年の川尻町絵地図写



江戸時代の米蔵

川尻には藩の年貢米の集積・搬出の拠点となった米蔵が3か所の敷地に
分かれて設置されていました。それぞれ「東蔵(川尻東)」「中蔵(川尻中)」「
外蔵蔵(川尻外城)」と呼ばれ、現在残っているのは「外城蔵」のみです。



川尻の歴史

The History of Kawashiri

鎌倉時代
室町時代
安土桃山時代
江戸時代

明治
大正
昭和

平成

令和

- 1195 河尻実明が河尻荘地頭になる(河尻城を築城する)
- 1228 道元禪師が川尻に漂着される
- 1276 寒巖義尹禪師が大渡橋をつくる
- 1278 寒巖義尹が大慈寺創建
- 1349 足利直冬が河尻幸俊により川尻に迎えられる
- 1588 加藤家入国
- 1610 この頃に川尻の船着き場がつくられる
- 1632 細川家入国
- 1634 川尻に町奉行所がおかれる
- 1638 細川忠利・先尚、川尻より島原に出兵
- 1640 細川忠利が幕府に拡張願を行い、揺動して無田川をつくる
- 1680 川尻米蔵ができる
- 1832 洪水により大きな被害を受ける
- 1865 上田休が川尻奉行になる
- 1877 西南戦争で薩軍の本営がおかれる
- 1894 川尻まで九州鉄道(現JR九州)開通(八幡停車場)
- 1927 川尻電車が全面開通(河原町〜川尻町)
- 1940 熊本市に合併し、川尻町、野田町、元三町、八幡町になる
- 1965 川尻電車が廃止される
- 1977 国道三号の川尻バイパスが全線完成(五反田〜元三〜杉島)
- 1998 今村家住宅が国登録有形文化財に指定
- 2010 外城蔵跡、船着き場跡が国の史跡に指定
- 2012 御船手渡し場跡が国の史跡に追加指定
- 2016 熊本地震で川尻地区も大きな被害を受ける
- 2023 「熊本藩川尻米蔵」として公開

来館案内

- 開館時間 午前9時30分〜午後4時30分
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)
年末年始(12月29日〜1月3日)
- 入館料 高校生以上200円・小中学生100円
- 所在地 熊本市南区川尻3丁目3-30
TEL (096) 358-8008
- 駐車場 川尻多目的広場駐車場
下記地図参照
- アクセス 産交バス「川尻町」下車 徒歩8分
JR川尻駅下車 徒歩15分



熊本藩川尻米蔵

(国指定史跡熊本藩川尻米蔵跡)



熊本市



くまもとはんかわしりこめぐらあと
熊本藩川尻米蔵跡

Ruins of the Kumamoto Domain's Kawashiri Rice Granary & Its Journey to National Designation

国指定史跡への道のり

【国指定史跡への道のり】

平成13年（2001年）から、河川改修に伴う史跡の保存検討会が国土交通省・熊本県・熊本市などの間で開始されました。その後、平成21年（2009年）には船着場跡、翌年には御船手渡し場跡の整備が完了し、平成22年（2010年）8月に「外城蔵跡・船着場跡」が国指定史跡となりました。

また、整備が完了していた御船手渡し場跡も重要な構成要素であるとして、平成24年（2012年）9月に国指定史跡に追加されました。平成26年（2014年）から、国の補助金を受けて、外城蔵跡の修復、震災復旧、展示制作を進め、令和5年（2023年）に開館しました。



船着場跡（ふなつきばあと）

江戸時代、飽田・託麻・宇土・上益城・下益城の5群17手永（※）が納めた年貢米は、水運を利用して川尻米蔵に集められていました。その荷揚げや船積みが行われていたのが船着場です。

船着場は長さ約150m、川の水量の増減に影響を受けないよう13段の石段が設けられています。

（近年積み増しされ、現在は14段）

船着場の真ん中あたりには、ほかの場所より精緻な石段が築かれた箇所があります。

この場所は地元で「殿様雁木」と呼ばれ、藩主やその一族、家老等の重臣の船が停泊するための場所だったと言われています。

（※）手永 細川家による独自の行政制度。

数ヶ村～数十ヶ村を一単位とした。



外城蔵跡（とじょうぐらあと）

江戸時代、熊本藩の年貢米の収納倉庫は、熊本・川尻・高瀬など7か所にありました。中でも川尻の御蔵に納入される年貢米は一年間で合計20万俵（約1万トン）にもものぼりました。当時の川尻には米蔵が3ヶ所の敷地に設置されていました。それぞれ「東蔵（川尻東）」「中蔵（川尻中）」「外城蔵（川尻外城）」と呼ばれ、多くの蔵が立ち並んでいました。しかし、明治4年（1871年）の廃藩置県などによってその役割を終え、取り壊しが進んだ結果、現在「外城蔵」の2棟のみが残っています。米蔵としての役割は終わりましたが、史跡川尻米蔵跡や川尻の歴史を伝える展示施設として活用しています。



御船手渡し場跡（おふなてわたしばあと）

船着場跡から下流へ約200mの場所に、川側へ台形状に開いた石敷きの場所があります。ここは川尻の外城町・船頭町と対岸の杉島御船手をつなぐ渡し場で、主に杉島に住んでいる御船手衆が川尻町と行き来するために利用されました。明治以降も生活の足として昭和36年（1961年）まで利用されました。

水運の拠点として栄えた街

熊本市の南部に位置する川尻地区は、中世の頃から緑川やその支流である加勢川を利用した水運の拠点として栄えました。近世に入り本格的な整備が始まると、藩の奉行所や御茶屋、御蔵などが設置され、藩の年貢米の集積搬出拠点となります。同時に軍港としての役割も担っていました。

熊本藩川尻米蔵跡は、蔵跡（幕末頃に建築された蔵2棟）と船着場跡が揃って現存している、全国的に見ても貴重な場所です。近世の物流・水運の様子を知る上でも大変重要であるとして、国指定史跡になっています。



東蔵 修復前



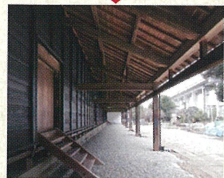
東蔵軒下 修復前



西蔵 修復前



東蔵 修復後



東蔵軒下 修復後



西蔵 修復後